

# 繁殖地への外来の哺乳類の侵入



▲海鳥繁殖地で捕獲された  
ドブネズミ。小型の海鳥に  
とってネズミ類は脅威<sup>きょうい</sup>になる。

僕たち海鳥は、捕食者の哺乳類のいない島で暮らしてきたんだ。でも、人間がネコやネズミを島に持ち込むと、僕たちの仲間はあるまに食べられちゃう。福岡県では、カンムリウミスズメが400羽くらいいた繁殖地がネズミによってほとんどいなくなってしまうことがあるんだ。いまはたくさんいるオオミズナギドリも、ネコが持ち込まれた伊豆諸島の御蔵島<sup>みくらじま</sup>ではすごい勢いで数が減っているんだって。



# 繁殖地でのカラス類の増加



▲カラス類によって捕食された  
カンムリウミスズメの卵

これまであまり人が渡ってこなかった島にも、釣りをする人がたくさん訪れるようになってきた。釣りに使った餌を捨てていく人がいて、それを食べるカラスの仲間が1年中見られるようになってしまったんだ。島で増えたカラスは、僕たちカンムリウミスズメも襲うようになって、毎年たくさんの仲間が食べられているんだ。釣りに使った餌や釣った魚は持ち帰って、島に残さないようにしてほしいな。



# 巣穴の場所をめぐる種間の競争



▲繁殖地の地上に降りるオオミズナギドリをつがい

クロコシジロウミツバメは、太平洋の西側では岩手県の無人島でしか繁殖していないんだ。でも、最近では島で繁殖するオオミズナギドリの数が増えて、ウミツバメの作った巣穴を壊してしまい、繁殖するウミツバメの数が減っているんだ。

対策のために、オオミズナギドリが壊せない巣箱を作ってウミツバメの巣穴を守る活動が行われているよ。



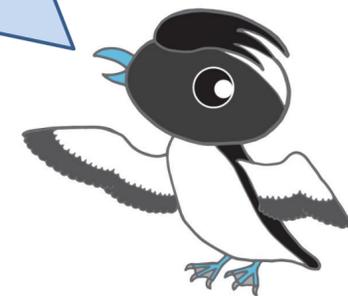
# 漁業と海鳥



▲操業中の巻き網漁船に集まるカモメ類の群れ。

人が食べる魚をとるために漁業は必要だけど、毎年、多くの海鳥が網に巻き込まれて死んでいるんだ。

なかでも、アホウドリの仲間は延縄漁による混獲が問題になっているよ。アホウドリの仲間は沈んでいく延縄はえなわの餌を食べようとして針にかかってしまうから、餌を入れるときに近くに來れないようにする鳥よけをつけるなどの対策法が開発されているよ。



# 油汚染



▲腹と頭部に重油がついてしまったウミネコ。体の一部に付着しても致命的になることがある。

燃料として使われる<sup>じゅうゆ</sup>重油が海に流れ出ると、海面で餌を食べている僕たち海鳥の羽にも油がついてしまうことがあるんだ。そうすると、羽毛の水をはじく機能が失われてしまって、体が冷えたり、飛び立てなくなったりしてしまうんだ。重油を運ぶタンカーの事故が起こって、たくさんの重油が流出すると、多くの海鳥が犠牲になってしまうことがあるよ。



# 海に捨てられるゴミ



▲釣針を飲んでしまい、釣り糸が全身に絡まって死んでいたオオミズナギドリ。体はネズミ類に食べられている。

海に残った釣り糸や釣り針が、僕たちの体についてしまうと、なかなか自分では外せない。ひどく絡まったりすると、動けなくなったり、翼や脚の先の血行が悪くなって腐ってしまうこともあるんだ。海に浮いている小さなプラスチックも、餌と間違っ  
て食べてしまう仲間がいて、胃の中からたくさん見つかることがあるよ。



# 海鳥を守るために

海鳥は人の生活から離れたところで繁殖するため、もし繁殖地で何か問題が起こって急激に数を減らしていても、すぐには気付かれず、保護対策が手遅れになってしまうかもしれません。日本では、そのようなことが起こらないよう、主要な海鳥の繁殖地では、環境省や大学の研究者によるモニタリング調査が行われています。



▲宮城県で行われているウトウの標識調査



▲宮崎県の繁殖地でのカムリウミスズメの生態調査